

第3章 奥大野村づくり計画（区総合計画）の背景

奥大野地域の現状と課題

1 位置

奥大野は、京都府の北端京丹後市の玄関口に位置する。京都方面から来ると国道312号から西側に入り、KTR（北近畿丹後鉄道）の西窓側に見ることができる。目印は、薬師堂の鎮守の木（表紙タモの木）。

当地区は、京丹後市内の玄関口に位置するという素晴らしい立地条件をもちながら、現在は通過の村でしかない。

2 集落の規模

集落の規模は、世帯数314世帯、人口910人、面積509ha、農地56ha（田43ha、畑13ha）で、人口規模で京丹後市の約100分の1.5の小さな村である。

奥大野区における土地利用については、市道奥大野中央線（旧府道野田川大宮線）沿いに集落が連なり、二級河川竹野川とその支流常吉川沿いに水田が広がっている。また、集落の北側に国営農地開発で造成された水田と大規模畑地が美しい景観を見せている。ほ場整備率は、90%を超え、効率的な農業が可能となっている。

平成8年に人口1,033人、世帯数270世帯であったものが、本年度においては下表のとおり人口は910人と123人（13%）減少し、世帯は314世帯と44世帯（16%）増加している。

資料：平成23年6月現在（京丹後市）

	奥大野区	旧大宮町	京丹後市
人口	910人	10,821人	61,106人
世帯数	314世帯	3,982世帯	21,236世帯
65歳以上人口 (高齢化率)	244人 (26.8%)	2,720人 (25.1%)	18,197人 (29.8%)
15歳以下人口 (割合)	120人 (13.2%)	1,582人 (14.6%)	7,900人 (12.9%)

3 歴史

成務天皇乙亥（1800年以上前）に丹波国丹波郡倉垣の庄（くらがきのしょう）と定められ、その後、和銅6年癸丑に丹後国丹波郡倉垣の庄大野となったが、嘉吉文安の頃（1441年～1448年）字奥山の山抜け（土石流）があり、民家が集中していた小字中野に土砂が堆積し、奥大野と口大野の2村に分かれた。その後、慶長年間（約400年前）に中郡奥大野村となって、寛文

6年（1666年）に幕府領となり維新を迎えた。

明治政府は、明治4年7月1日廃藩置県を断行、宮津藩・峰山藩は宮津県・峰山県になったのだが、それ以前の慶応4年（1868年）5月に久美浜代官所管内は久美浜県に変わっていたので、その管内の奥大野・谷内・三坂・五十河・延利・久住・明田は久美浜県に、宮津藩内の口大野・上常吉・下常吉・三重・森本・周枳は宮津県に、峰山藩だった河辺・善王寺は峰山県に属した。しかし、明治4年11月12日この三県が新しく豊岡県に編入され、旧大宮町の村落は豊岡県に属した。その後、明治9年8月21日に豊岡県が廃止され、丹後は京都府に所属した。

明治22年、口大野と奥大野が一旦合併して大野村となったが、口大野は機業地、奥大野は農業主体の村で経済的基盤が異なっていたことなどから、明治25年に奥大野村と口大野村に分かれた。その後、昭和26年に他村とともに大宮町に新設合併し、更に平成16年に他町とともに京丹後市に新設合併し、現在に至っている。

4 産業

奥大野は、農業と織物業を基幹産業として栄えてきたが、昭和48年のオイルショック以降長引く構造不況の中で、衰退が著しく、代わって機械金属加工業が成長してきた。しかし、平成20年のリーマンショック以来、世界的な経済不況に加え、最近では欧州経済危機やアメリカの財政危機などの影響で国内経済は極めて厳しい状況が続いており、当地区においてもその影響は非常に大きい。

こういった厳しい状況のなか、織物業は業者の減少が続くなかで体質強化を図るため、和装から洋装関連品へと事業転換し、生き残りをかけて地場産業を支えている。機械金属業においても、高付加価値の新分野に転換を図り、自社提案による企画生産をめざした新たな挑戦を進めている。

商業においては、歴史のある酒造会社が、厳しい日本酒販売から焼酎づくりに移行しながら経営の継続を図っている。旧町内ではまだ珍しかったスーパーは姿を消したが、豆腐屋や村唯一の食品雑貨販売店が、高齢者等にとって食料等生活必需品の確保に重要な役割を担っている。また、地域には、建築業も多く、陶芸屋、農機具屋、理容・美容室、染色業、リサイクル業、刺繍業、寺社、英会話・教育・音楽塾、石屋、整体師、食の体験工房、アジアンショップなど数多くの業種・企業が地域産業の発展に寄与している。

農業においては、農地の基盤整備は完了し、水稻中心の中核農家が育ってきているが、農家戸数は横ばいで兼業農家が多く、高齢化も進み、離農などによる耕作放棄、農地の遊休化など地域農業の危機が現れ始めている。農業生産は、水稻が中心であるが、最近大規模畑地において自然農法野菜等の栽

培も始まっている。

また、平成14年に農林業を通して奥大野地域の活性化と人材育成を図ることを目的に農事組合法人楽農くらがきが発足した。この法人組織は、農家や農家以外の異業種の参加で地域の農業を守り、地域社会に貢献する活動を進めており、今後は農事組合、国営管理組合、どじょう組合、地域農場づくり協議会、農地・水・環境保全委員会、野菜の宅配ぼのぼのなどと連携しながら、当地区農業の中心的な役割が求められている。

5 コミュニティー活動

奥大野では、平成6年頃まで公民館活動を中心に、人材育成や地域の活性化に関する取り組みを進めてきた。平成7年からは、旧大宮町の指導で奥大野村づくり委員会が発足し、公民館や各種団体と連携して現在の取り組みが行われている。

公民館、村づくり委員会、花づくり会、倉垣DOTEどて音遊会、(農)楽農くらがき、消防団、奥大野クラブ(野球)、奥大野ジャニーズ(ソフトボール)、ファイヤー(バレーボール)、自主防災会、どじょう組合、フレッシュ奥大野(グラウンドゴルフ)、野菜の宅配ぼのぼの、福祉の会、倉垣カントリー(ソフトボール)、長寿会、緑友会、おもろげ座など多くの組織団体が連携して、村の三大イベントに育った倉垣桜公園祭(約600本の桜)、納涼祭、ええ里づくりを運営実行し、人の交流と人づくり、物づくりを進めている。

また、このほかにも、さくら草による沿道花いっぱい運動(奥の細道 花の道・美観地域)、村内環境整備活動(空き缶拾い、草刈、溝掃除など)、子供キャンプ、田んぼリンピック、運動会・ペタンク・グラウンドゴルフ大会など、各団体の活動が、ネット(網)が重なるように展開されており、活発なコミュニティー活動が進んでいる。

更に、京丹後市オープンガーデンネットワーク主催によって、毎年5月を中心にオープンガーデンが開催されており、住民主体による交流活動が活発に行われている。

6 住民自治活動

奥大野区は、法人格を持つ地縁団体であり、平成20年に新築となった自治公民館を有し、区長・区役員・隣組長を中心に地区運営が行われている。

区は、毎年隣組長会を開催し、事業報告・計画、予算・決算等が審議承認されている。会計年度は24年度より暦年から年度に変更することになった。

また、奥大野区、上常吉区、下常吉区、谷内区、三坂区の5地区は、大宮第二小学校新設後、広域的に自治の連携を進め、大宮第二小学校区長連絡協議会を結成し、広域的な地域の課題解決に向けて取り組んでいる。

7 消防・防災活動

消防活動に関しては、昭和40年代から礼式訓練や消防操法などを中心に活発な消防活動を展開し、昭和61年には京都府消防操法大会ポンプ車の部で優勝し、その後も京都府並びに京丹後市の大会において優秀な成績を収めている。しかし、若者の都会流出によって団員の確保が難しくなっているのに加えて、サラリーマン団員が多く、日中に火災が発生した場合、その対応が困難になってきている。このことは、当地区だけの課題ではなく、他地区でも同様の課題を抱えており、その対策が急がれている。

地域防災に関しては、他地区に先駆けて平成11年に奥大野自主防災会を設立して、毎年区と合同で総合防災訓練を実施している。また、区のイベントにも参加し、防災活動をPRするなど幅広く、積極的な防災活動が展開されている。

平成14年には、平太郎山防災施設整備と併せて奥大野地区防災計画を定め、過去の災害を検証するなかで、区民の安全を確保する諸施策を実施するための、危機管理指針として運用されている。しかし、この防災計画も平成24年で10年を経過するため、内容の見直しが必要となっている。

8 福祉・安心・安全活動

少子・高齢化の波は、当地区にも波及しており、特に少子化は秋祭りや地藏盆などの行事に支障がでてきている。高齢化についてもその進行は顕著であり、独居高齢者問題や後期高齢者を若齢の高齢者が介護する「老老介護」が当区でも始まっている。

当区では、福祉の会による、子育て中の親子を対象とした「子育てサロン」、高齢者等を対象とした「ふれあいサロン」が開催されており、「子育てサロン」は育児相談や親子の交流機会が増えて、保育所入所までのお友達づくりに役立っている。また「ふれあいサロン」は、長寿会（老人会）を中心に、誰でも気軽に参加できる雰囲気づくりを行い、独居の孤立化防止や健康の保持向上に役立っている。

また、大宮第二小学校の児童を、登下校時の防犯、交通災害から守るために、大宮第二小学校区の子供を守る会が登下校下時、毎日交差点の横断歩道に立ち番として出動し、子供達の安心安全を確保している。

9 社会体育・教育活動

コミュニティー活動でも述べたが、公民館主催で毎年運動会、グラウンドゴルフ大会、ペタンク大会などが全区員を対象に順次開催され、区民の社会体育振興に寄与している。また、区民有志による野球、ソフトボール、バレーボール、ソフトバレー、グラウンドゴルフ、ゲートボール、駅伝チームな

ど多くのチームが活躍していて、社会体育の底辺を支えている。その結果、最近、少年野球や陸上、レスリングなどにおいて府下大会や全国大会へ出場し、優秀な成績を収める子供達が出てきたことは、区民にとってよい刺激にもなり、地域の活性化につながっている。

公民館主催による子供キャンプ、農事組合法人楽農くらがき主催による田んぼリンピック、田植え・稲刈り農作業体験など、各種イベントに子供達が参加して経験を積むことは、今後子供達が社会で生きていくための大切な教育で、今後も継続発展していく必要がある。

10 伝統・文化・記念物

毎年秋祭りにおいて、若宮神社に奉納する笹囃子、神楽、太刀振り、楽打ちを、神楽、太刀振りは保存会が、笹囃子、楽打ちは隣組が順番に伝統を継承している。朝姫稲荷神社の夏祭りは、屋台や花火の打ち上げなど、子供達にとって待ち遠しいイベントとなっている。また、古くから継承されている観音堂、八幡神社、薬師堂、荒神神社のお祭りは、地元の隣組が管理継承している。

大宮第二小学校周辺には裏陰遺跡があり、この遺跡は今から約7000年前から約1000年前までの、約6000年間の長期にわたる集落があり、生活が営まれていた。また、奥大野公民館前の小山（前方後円墳の可能性が強い）にある新戸古墳は、中郡の発掘古墳のなかでも最大の石室を有するものであり、富裕な豪族の古墳と推定されている。

新しい伝統として、毎年12月に還暦を迎える区民が、神社に奉納する注連縄（しめ縄）づくりの行事が行なわれており、年末には若宮神社氏子有志による初老、還暦者の厄払いも行なわれている。

11 公共的施設

大宮第二小学校、障害児（者）多機能型生活支援センターろむ、奥大野公民館、区体育倉庫・作業場倉庫、わくわく公園、倉垣桜公園、平太郎山多目的広場

第4章 地域の課題整理と地域資源の再発見

策定会議委員全員によるワークショップ形式で、奥大野地域における課題抽出と地域資源・特性の再発見作業を行った。

＜ワークショップの手順＞

委員全員によるフリートーク ⇒ カード作成 ⇒ 類似意見整理 ⇒ 意見カード集約整理 ⇒ まとめ ⇒ 発表

奥大野の活性化をめざして

『課題は何か！』

地域のさまざまな課題を探して次のステップへ！

生活基盤の改善

交通量の割に道路が狭い
抜け道となり交通量が増えて危険
除雪をきれいにしたい
散策路（未舗装）を整備したい
バス等の公共交通の整備
未整備の道路や河川（水路）が多い
街灯をもっと増やしたい
下水道整備が進んでいない

公共施設の改善

子どもの遊ぶ場所（公園等）が無い
集まって話せる場所（集会所）が無い
わくわく公園を公園らしくしたい
平太郎山の使用目的が無い
太刀屋台の倉庫が古い
公民館が狭い
図書館、温泉施設が欲しい
文化財がひと目で分からない

地元産業の振興

奥大野の特産品や地酒が無い
産直施設や観光客の集客施設が無い
地元で事業所が少なく、働く場所がない
観光名所がない
B級グルメが必要
織物業の不振で機屋が減った
有害鳥獣対策の拡充

生活環境（利便性）の向上

店舗が少ない（日常の買い物が不便）
村営食堂が欲しい
花屋、ケーキ屋、喫茶店が欲しい
コンビニが欲しい
音楽ホール、映画館が欲しい
歩いて行ける居酒屋が欲しい

目標・将来像

地域の特性が弱く、区が目玉が無い
ウォークラリーで廻る場所が少ない
区民の行事を増やしてほしい
他地区・他地域との交流が不足している

人間性・モラルの欠如

挨拶の出来ない子供や大人が多い
若い人のマナーが悪い（教育が必要）
隣近所のつきあいが薄れている
高齢者の人付き合いが悪い
文化面の理解や社会性の無い人が多い
ボランティアが少ない
川にゴミを流す人がいる
不合理なしきたりや古い人間関係がある

人材不足

一部の人だけ目立っている
何事にもリーダーが不足している
会議等（役員等）で同じ人が多い
若者が村づくり活動に無関心
イベントに若者が参加しない
イベントに携わる人間が少ない
ハード事業の参加が少ない（草刈等）
意識が意外とバラバラでまとまりが悪い

農林業生産基盤の改善

農業担い手不足・農業をする人が少ない
農地や里山の荒廃が目立つ
農道や水路の整備が出来ていない
高齢化で農地、施設の管理維持が困難
分収造林、林道の荒廃
未利用農地の増加
常吉川堤防道路が未整備

自然環境の改善

自然を上手に活用していない
蛍が少ない。沢山見れる場所が必要
夏場は河川に水が無い
奥山を何か活用したい
山や森林の手入れがされていない
放置竹林が目立つ

少子高齢化の進行

子供や20代の若者が少ない
高齢化が進み、独居老人が増えている
人口が減少している

奥大野の活性化をめざして

『長所（地域資源）は何か！』

地域資源を活用して新たな村づくりを！

人材
リーダーシップがとれる人がいる 人間性が良い 女性や高齢者が元気 奥大野を好きな人が多い イベント好きで参加者が多い 都会からの移住者が増えた 他地区に比べて若い人が多い 酒を飲む友達・機会が多い

イベントによる活性化
納涼祭・ええ里などイベントが多い 新しい企画が実行できる力がある イベント参加者が多い（年代が幅広い） 村づくりの活動がすばらしい 公民館行事が充実している ボランティアが上手に行なえる 草刈への参加者が多い

文化財の活用
旧奥大野公民館の木造建築 観音さん・八幡さん・薬師さん・稲荷さん 薬師さんの夕モの木と大きな椿 大同酒造と大同邦夫さんの別荘の間の風景 若宮神社 城跡

環境美化活動が盛ん
桜草が満開になると美しい 桜草など花を育てている人が多い 花好きな人が多く庭が綺麗だ

伝統芸能
秋祭りの参加者が多い 伝統芸能（秋祭り）がある

農業資源の活用
国営農場・国営畑 自然農業

コミュニティー
隣組・近所の間関係が良好 地域の子どもが挨拶をする 元気でエネルギッシュな村 目標に向かってまとまりがある地域 旧区民と新区民との壁が無い 年齢に関係無くモノが言いやすい 交流の場が多く協力的な人が多い 地域の繋がりがあがる

自然環境
山、川、動物などの自然が豊かである 奥山・奥山川が素晴らしい 水や空気がうまい 小学校下の川沿、常吉川がきれい 鹿、猪、狸、猿等の動物が多く見られる

施設
桜山公園が綺麗だ まんだら池周辺の景色が良い 地元に小学校がある 立派な（新しい）公民館がある 桜山公園・楽農ハウスなどがある 平太郎山公園

特産品
お米がおいしい 食べ物がおいしい 奥大野ラーメンがおいしい

立地条件
交通の便が良い（京丹後市の玄関） 水害等の災害が少ない

良好な生活環境
吉勘は買い物が大変な老人の為に必須 のんびりと暮らしやすい